

平成28年度 輪之内町立大藪小学校 学校評価

| | |
|---------|--|
| 学校の教育目標 | よく考え 励まし合って やりぬく子 ○よく考える子 ○励まし合う子 ○やりぬく子 |
| 経営の重点 | 子どもに「よりよく生きる力」と「自信」をつける学校 ◎明るいあいさつができる子 ◎仲間と共に支え合って乗り越える子 ◎ふるさとを愛し、誇りに思う子 ◎一人一人を大切に、深い児童理解を基に実践する教職員 |

| 町の重点 | 評価の観点 | 評価 | 今年度の成果 | 来年度への課題と改善策 | 学校関係者評価 |
|---|--|----|---|---|---|
| 【学校経営】 全教職員が協力して活力ある学校経営をする | 1 ◎ ＜特色ある学校＞幼保・小・中の一貫性のある指導を充実させ、各学校の児童生徒や地域の特色を生かした創意ある教育課程を編成・実施する。 | B | ○こども園職員との懇談で、互いの生活や指導の重点・子どもの様子などについて、情報交換したり話し合ったりすることができた。 ○1年生とこども園の交流を通して、子どもは互いのよさを発揮することができた。 ○中学校との連携として、6年生への主幹教諭や中学生の話を生かして、中学校を見据えた指導に生かした。 | □こども園や中学校との交流や懇談で、子どもの情報交流とともに、互いの学習や生活についてを理解し合い、指導に生かす。 □入学児童に関する情報交流をきめ細かく行う。 □中学生と6年生との交流の会を、さらに有効に指導に生かす。 | ・学校の教育目標に向かって、協力して、組織的に取り組んでいる。「学校が楽しい」と感じている子どもが多いことに表れている。 ・「ふれあい活動」が、地域の人やPTA、中学生との交流の場となっている。中学生が地域の中で生きることに繋がっている。 ・こども園との交流が、定着してきた。さらに意図的、計画的に進め、互いのよさを学び合う。 ・中学生が小学校を訪問しての活動は、互いにとってよい刺激となる。さらに、いろいろな面で中学校との連携を図り、指導に生かすようにする。 |
| | 2 ＜開かれた学校＞学校の教育方針や指導改善に向けての方針を受けた教育活動を積極的に公開し、学校評価や児童生徒の実態等を学校経営に生かし、開かれた学校づくりを推進する。 | B | ○町民運動会やふれあい活動などを通して、地域の方や保護者、ボランティアの中学生などと共に活動することができた。 ○地域に根ざした活動や「見学」「出前授業」「思春期教室」「食育」など、地域の人材を活用した効果的な授業の実践に努めた。 ○学校だよりや学年通信の発行で、学校の教育活動を保護者に伝える。 | □保護者アンケートを生かし、あいさつや家庭学習の充実に向けた取り組みを、地域やPTAと連携・協力して行う。 □ホームページの更新を随時行う。 | ・いろいろな場面を想定して、訓練が行われている。地域や輪之内町全体との連携は、教育委員会や役場との協力が必要である。 |
| | 3 ＜危機管理＞児童生徒の命を守りきることを最優先に考え、全教職員が危機意識をもって一人一人の安全・安心の確保に努め、学校内外の環境を見直すとともに、家庭・地域社会・関係機関等との連携強化を図り、適切かつ確実な危機管理体制を確立する。 | B | ○「命を守る訓練」の時間帯や想定、対応、指導などを細かく検討しながら実施したことで、児童に考えて行動する力が、少しずつついてきた。 ○教室や遊具等の安全点検を定期的に行った。異常が見られたときは、早急に対処し、安心・安全の確保に努めた。 ○全ての教室で上靴をはいて活動するなど、緊急の場合にも、児童が安全に行動できるようにした。 ○地域の見守り隊との連携や教職員の下校指導 | □各学級でも、多様な想定や実際の避難の仕方について、継続的に指導したり児童に考えさせたり実施したりする。 □場面や学年に応じた事前指導・事後指導を行う。 □町のハザードマップや避難経路等の研修を行っていく。 □校舎内での落ち着いた生活について、全校で取り組む。 □安全な登下校について、児童の意識を | ・先生が余裕をもつことが、子どもの理解を深め、子どものえがおにもつながる。子どもにとって、大切なことは何かをよく検討して、スリム化を進める。 |
| | 4 ＜スリム化＞校務分掌や運営組織等を見直すなどして業務のスリム化を図り、児童生徒に関わる時間を増やすとともに、教職員自身が心身に健康で、やりがいをもって教育活動に取り組めるよう、学校経営の充実を図る。 | B | ○スリム化できることを話し合い、業務や教育課程を見直すことに努めた。 ○連絡事項等を掲示板を活用して伝えることで、打ち合わせなどの時間の短縮に努めた。 | □年間を通して、行事や日常活動における諸活動を見直し、児童の力になることを大切に、精選する必要がある。 □教室掲示は、児童の学習や生活にかかわることを大切に、シンプルにする。 | ・先生が余裕をもつことが、子どもの理解を深め、子どものえがおにもつながる。子どもにとって、大切なことは何かをよく検討して、スリム化を進める。 |
| 【研修】 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける | 5 ◎ ＜校内研修＞校内の主題研究を組織的・計画的に推進するとともに、教職員としての専門性や確かな指導力を高める研修を主体的に行う。 | B | ○計画的に主題研究にかかわる校内研修を行った。 ○全校研究会で明らかになったことをもとに、学年部研究会でも仮説に沿った授業改善に努め、指導力を高めた。 ○基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得とそれらを活用し、思考力・判断力・表現力を育てる授業について、研修することができた。 | □児童の実態をふまえ、つけたい力や重点などを明確にして、研究の方向や内容を明らかにする。 □思考力・判断力・表現力を育てる授業の在り方を研究内容として、取り組む。 | ・授業に課題が位置付き、課題解決のために、具体的な資料や支援があることで、子どもが授業に集中している。 ・さらに、授業の中で、子どもにじっくり考えさせる時間を大切にする。 ・若い先生に、ベテランの先生の学級経営や指導を伝えることが大切である。 |
| | 6 ＜個人研修＞経験年数や職務に応じて、一人一人が個人研修課題を明確にし、具体的な目標と方策をもち、教職員としての資質や能力を高める研修に主体的に取り組む。 | C | ○研究会や授業の公開や授業研究会を通して、授業の工夫改善を図り、指導力を高めた。 | □めざす児童の姿を共通理解した上で、個人の研修課題を明確にして、研修を進める。 □学校外の研修会に積極的に参加する。 | ・効果的なデジタル教科書の活用について、校内での研修や交流を図る。 |
| | 7 ＜情報研修＞分かる授業のためのICTの効果的な活用法及び情報モラル等、情報活用能力の向上に関わる実践的かつ効果的な研修を行う。 | C | ○いろいろな教科・領域の授業で、デジタル教科書を活用した。 | □効果的なデジタル教科書の活用について、校内での研修や交流を図る。 | ・「学習のスタンダード」でめざす姿が明確になっている。「聞く・話す・書く」は、授業が成立するために、大切なことである。さらに、「話し合う」「聞き合う」授業を大切にする。 ・授業内容の習得について、授業の終末に教師と子どもの双方で、確実に見届けようとする。 ・漢字や計算の検定は、意欲を高め、定着を図ることにつながる。継続をすることが大切である。 ・子どものよさを価値付け、一人一人を認め励ますことが、一人一人を伸ばし、学習集団を高めることにつながる。 |
| 【教科指導】 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する | 8 ◎ ＜基礎基本の定着＞指導目標と評価規準を明確にした指導計画のもと、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得とそれらを活用し、思考力・判断力・表現力を育てる授業を実施する。 | B | ○算数では、児童が理解すべきことを明確にして、基礎的・基本的な技能や知識の習得のために、練習問題に取り組む時間を十分に確保した。 ○算数では、評価問題を教師が見届け、個別指導することで、児童ができる喜びを味わい、基礎基本の力を身に付けることにつながった。 ○授業の中で表現する場を意図的に設定して、表現力の育成に努めた。 ○「計算・漢字テスト」の学び直しの時間を設定した。児童は、学期末の計算・漢字検定に目標 | □基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得を目指して、適切な課題の設定や習熟の時間の確保と見届けをする。 □「漢字・計算のテスト」の内容や取り組み方、文化賞の在り方を見直し、さらに児童の力になるようにする。 □キーワードをはっきりさせた板書や切り返し発問を工夫するなど、引き続き授業改善に努める。 □自分の思いを的確に、豊かに伝える表現力を身に付けさせる指導を工夫する。 | ・「学習のスタンダード」でめざす姿が明確になっている。「聞く・話す・書く」は、授業が成立するために、大切なことである。さらに、「話し合う」「聞き合う」授業を大切にする。 ・授業内容の習得について、授業の終末に教師と子どもの双方で、確実に見届けようとする。 ・漢字や計算の検定は、意欲を高め、定着を図ることにつながる。継続をすることが大切である。 ・子どものよさを価値付け、一人一人を認め励ますことが、一人一人を伸ばし、学習集団を高めることにつながる。 |
| | 9 ＜個に応じた指導＞指導内容の系統性、発展性や児童生徒の発達の段階を踏まえ、一人一人の学力や学習状況に応じた多様な指導方法や体制、評価を工夫改善してきめ細かな指導をし、確かな学力の定着を図り、その状況や実態を見 | B | ○計算・漢字検定の再テストのやり方を工夫することで、児童は全員合格することができた。 ○学級の実態に合わせた算数の少人数指導(2年・3年・4年)を実施し、一人一人の見届けを確実に行った。 | □「計算・漢字」テストの問題を見直す。 □学年相当の基礎的な力についていない児童への指導の場と方法を明確にして取り組む。 | ・「学習のスタンダード」でめざす姿が明確になっている。「聞く・話す・書く」は、授業が成立するために、大切なことである。さらに、「話し合う」「聞き合う」授業を大切にする。 ・授業内容の習得について、授業の終末に教師と子どもの双方で、確実に見届けようとする。 ・漢字や計算の検定は、意欲を高め、定着を図ることにつながる。継続をすることが大切である。 ・子どものよさを価値付け、一人一人を認め励ますことが、一人一人を伸ばし、学習集団を高めることにつながる。 |
| | 10 ＜学習集団づくり＞児童生徒の発達の段階に応じた各教科の学び方を身に付け、学び合う学習集団へと質を高めるとともに、学習習慣を確立する指導を充実する。 | B | ○授業にペア交流を位置づけることで、児童の思考力や表現力を高めるようにした。 ○授業でネームプレートを活用し、一人一人の意見を価値付け、「つなぎ発言」を大切にして授業を進めることで、学び合う学習集団に高めることに努めた。 ○「聞くこと・話すこと」について、学習目標を大切にして指導したことで、その成果が児童の姿に現れてきた。 | □ペア交流の仕方を、段階的・具体的に指導したり、評価の観点にキーワードを聞き取り合ったりするなど、効果的なペア交流のあり方を探る。 □「学びのスタンダード」をもとに、学習規律などを明確にして、どの学級でも徹底する。 □自分の思いや考えが自由に発言できる集団作りに努める。 | ・「学習のスタンダード」でめざす姿が明確になっている。「聞く・話す・書く」は、授業が成立するために、大切なことである。さらに、「話し合う」「聞き合う」授業を大切にする。 ・授業内容の習得について、授業の終末に教師と子どもの双方で、確実に見届けようとする。 ・漢字や計算の検定は、意欲を高め、定着を図ることにつながる。継続をすることが大切である。 ・子どものよさを価値付け、一人一人を認め励ますことが、一人一人を伸ばし、学習集団を高めることにつながる。 |

| 町の重点 | 評価の観点 | 評価 | 今年度の成果 | 来年度への課題と改善策 | 学校関係者評価 |
|---|---|----|---|--|---|
| 【道徳教育】 自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる | 11 ＜全教育活動を通じた道徳教育＞道徳教育推進教師を中心として、道徳指導別業を活用し、全教育活動を通して道徳教育を充実させる全体計画や指導計画を工夫改善する。 | B | ○学級における道徳年間指導計画を、新しい項目での見直しをした。 ○児童会の「あったかフラワーガーデン」の取組を、道徳の価値項目と関連づけて授業を行うことで、児童の実践力につながる指導をした。 | □道徳の時間と「あいさつ・美化・ボランティア・言葉遣い」等との取組とのつながりを各学年で明確にする。 | ・道徳の授業の基本的な授業過程が定着している。さらに、心が揺さぶられる資料を選択するなど心にしみいる道徳の授業を大切ににする。 ・道徳教育は、道徳の授業だけでなく、いろいろな場で、意図的に行うことで、道徳性を高めるようにする。 ・命の大切さや相手を思いやる心を育むことを、さらに大切にしている。 |
| | 12 ◎ ＜道徳の時間＞道徳の時間（道徳科）のねらいを明確にし、道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力が育成されるよう、指導過程や指導方法を工夫する。 | B | ○年間計画に沿って、季節や行事に合わせ、児童の実態等を踏まえてねらいを設定し、計画的に指導した。 ○道徳のねらいを明確にし、道徳的価値の自覚を深めるために、発問や問い返しを工夫した。 ○「道徳ノート」を活用し、道徳の時間の価値を生活に結びつけて、自分自身を振り返らせることができた。 | □指導過程や指導方法などを学び合う研修を充実する。 □授業の後半に、自分自身について考える時間を確実に確保する。 □道徳の時間に学んだ価値を実践力に結びつける工夫を図る。 □資料の見直しや整備をする。 | |
| | 13 ＜心を育む体験活動＞ふるさと教育や「あいさつ・美化・ボランティア」への取組を通して、自己を見つめ、他を思いやる指導を充実する。 | B | ○あいさつや掃除について、児童の委員会活動としてキャンペーンなどを行って取り組むことで、静かに掃除をするなど児童の意識を高めた。 | □あいさつ・スリッパそろえ、ゴミ拾いなどをボランティア活動として設定する。 □児童会が中心となって、全校的に「あいさつ運動」に取り組む。 | |
| 【小学校外国語活動】 外国語を通じて、コミュニケーション能力の素地を養う | 14 ◎ ＜指導計画・指導体制＞児童の実態や学習段階を考慮した指導計画を工夫改善し、一人一人にコミュニケーション能力の素地が養われるよう指導を充実する。(小) | B | ○ALTと事前打ち合わせを行い、授業の流れを決め、歌やトピックを入れて授業を進めた。 ○評価の観点を明確にして、コミュニケーションの仕方を指導した。 ○町内の小学校統一の授業の流れを明らかにし、ALTと連携して、児童の実態に応じて授業を進めた。 | □ALTとの打ち合わせをしながら、担任が中心となって授業を行うようにする。 □修学旅行先での外国人へのインタビューなど、英語でのコミュニケーションが必要になる場を設定する。 □「昼の放送」などを利用して、日常的に英語に触れられるようにする。 | ・ALTと協力して、授業の流れを統一したり、学習活動を工夫したりすることで、子どもが楽しく英語活動に取り組むことで、外国語に親しむことができる。 |
| | 15 ＜指導過程＞積極的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを体験する活動を工夫する。(小) | B | ○児童のよさを評価することで、児童は笑顔、アイコンタクトなどを大切にして活動することができるようになってきた。 ○児童が楽しめるゲームを取り入れながら、楽しく学び英語に親しむことで、一人一人のコミュニケーション能力を高めることにつながった。 | □トピックなどについて、質問する機会をもつようにする。□一人一人が、確実に英語でのコミュニケーションを図ることができているかなどを、さらに見届けと励ましをする。 | |

| 町の重点 | 評価の観点 | 評価 | 今年度の成果 | 来年度への課題と改善策 | 学校関係者評価 |
|---|---------|----|--|--|---|
| 【総合的な学習の時間】 探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。 | 16 ◎ | B | <p>○計画的に地域に出かけ、地域の講師の方から話を聞いたり体験活動を行ったりした。</p> <p>○児童の興味関心に合わせて、指導計画を改善しながら進めた。</p> <p>○発表する対象を、保護者や下学年として、指導計画に位置づけた。</p> | <p>□改善したことを記録して残し、次年度に生かすようにする。</p> <p>□下学年を対象に発表会を行ったことで、よりわかりやすく伝えようとする意欲につながった。</p> | <p>・ふるさと学習が、計画的に進められ、「ふるさと学習発表会」で、下学年の子どもが参観することで、双方の子どもが意欲を高め、活動を継続することにつながっている。</p> <p>・「ふるさと学習発表会」を授業参観にしたことで、多くの保護者に学習を伝えることができています。</p> <p>・子どもが地域に目を向け、足を運ぶ機会を大切にすることで、地域とのつながりも深めることができる。</p> |
| | 17 ◎ | B | <p>○学んだり体験したりことを自分でまとめる活動を設定したり、本やパソコンを活用して調べたりする活動を充実させた。</p> <p>○学んだり体験したりしたことを、分かりやすく発表するための効果的な表現の仕方を指導をした。</p> | <p>□国語の学習との関連を図り、多様な表現の仕方を学年に応じて、計画的に指導する。</p> <p>□児童が自ら調べたり生活に生かしたりすることができる活動の工夫をする。</p> | |
| 【特別活動】 所属感を高め、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的な態度を育てる | 18 | B | <p>○児童は、学級での係活動に責任をもって取り組むことができた。</p> <p>○児童は、委員会の常時活動に責任をもって取り組み、キャンペーン活動など工夫した取り組みをした。</p> | <p>□取り組みの成果を明らかにして、児童の充実感や次の活動への意欲を高める。</p> <p>□児童の問題意識を高め、さらに、児童の自発的な活動を促し、支援をする。</p> <p>□委員会のキャンペーン活動等が重ならないように調整をする。</p> | <p>・「わかたけ活動」は、上級生と下級生の交流の場となり、思いやりの気持ちを育てることにもつながる。</p> <p>・児童が学校や学級の課題を捉え、解決していける機会や指導をすることが大切である。</p> <p>・児童会の働きかけをさらに充実させることで、学級や学校への所属感を高めたり、よりよい人間関係を育てることにつながる。</p> <p>・あいさつができる子どもを、地域や学校で認め価値付けることで、あいさつができる子どもを増やしていくことが大切である。</p> |
| | 19 ◎ | B | <p>○毎月生活のめあてを受けて、学級のめあてを決めて取り組んだ。</p> <p>○どの子にも居場所と充実感がある学級づくりに努めた。</p> <p>○学級で問題が起きたときは、すぐに話し合いをしたり指導したりすることによって、望ましい人間関係を目指して指導した。</p> | <p>□児童自身が学級の諸問題に目を向け、話し合いや取り組みで解決しようとする意欲と力をつけるための指導を工夫する。</p> <p>□休み時間などに児童とふれ合う時間をもつことで、さらに、児童理解を図ることを大切にする。</p> <p>□話し合いの仕方を指導するなどして、話し合い活動を充実させ、児童の自発的な力をつけるための指導を工夫する。</p> <p>□人間関係や学級のまとまりを崩しがちな児童に対して、教職員が連携して指導する。</p> | |
| 【生徒指導】 共感的な理解に徹し、望ましい人間関係を築く力と自己指導能力を育てる | 20 ◎ | B | <p>○定期的な「心のアンケート」を活用したり、児童の話に耳を傾けたりして、児童理解に努めた。</p> <p>○日常的な教育相談やアンケートなどを通して、いじめの未然防止や早期発見に努め、解決に向かう働きかけをした。</p> <p>○児童の問題行動に対して、生徒指導を中心に共通理解をしたり、管理職や主任・担任が連携をとりながら迅速に対応、指導した。</p> <p>○不登校傾向の児童の対応を組織的にを行い、登校を働きかけた。</p> <p>○生徒指導交流を通して、全職員で児童の情報の共有に努めた。</p> | <p>□アンケートや教育相談等を活用して、いじめや問題行動について未然防止・早期発見に努め、組織的に対応・指導することを継続する。</p> <p>□保護者への連絡や説明は、事前に複数で確認するなど慎重に行う。</p> <p>□「さんづけ」に関わる取り組みを実施し、児童が仲間のことを大切にできる気持ちや態度を広める。</p> | <p>・子どもに、担任だけでなく、いろいろな先生が関わっていることで一人一人が大切にされていることがよくわかる。</p> <p>・心のアンケートが毎月実施され、その都度指導されていることが、いじめの早期発見につながっている。</p> <p>・無記名アンケートは、児童が言えないことが表れることもあり、児童の理解や指導に生かすことができる。</p> |
| | 21 | B | <p>○定期的に学年集会を開き、学年としての意識を高めた。</p> <p>○朝の会や帰りの会などに児童のよい姿を価値付け、広めた。</p> <p>○学級遊びを行うことで、児童の関わりをつくるようにした。</p> <p>○児童一人一人に役割を位置づけ、やり遂げることができるように働きかけた。</p> | <p>□生活や学習に対して、学年で統一した取り組みを行う。</p> <p>□よい姿を学年集会で価値付ける。</p> | |
| | 22 | B | <p>○「ひびきあい集会」で、自分も相手も大切にしようという意識を高めた。</p> <p>○社会見学、校外学習などの場で、交通ルールや公共のマナー、話の聞き方、お礼の挨拶などを指導し実践した。</p> <p>○ルールを守ることや命を大切にすることなどを、その場その場で指導した。</p> | <p>□児童が相手の気持ちを理解し、思いやりの気持ちをもって行動できることを目指して、研修したり交流したりする。</p> <p>□児童の帰宅の時間等を繰り返し指導するとともに、学校周辺の巡回を地域や保護者と連携して、徹底する。</p> <p>□校舎内や運動場での安全な生活について、学年に応じて具体的に指導する。</p> | |
| 【進路指導】 自分の生き方を考え、主体的に進路を選択できる能力や態度を育てる | 23 ◎ | B | <p>○ねらいを明確にした係活動や清掃活動を位置づけ、進んで働く児童を価値付けたことで、働く喜びを感じたり、意欲的に取り組んだりする児童が増えた。</p> <p>○運動会の係活動などを通して、児童は責任感と達成感をもつことができた。</p> <p>○児童に自分たちの掃除の姿について見直しをさせることで、掃除に一生懸命取り組めるようにした。</p> | <p>□係活動や当番活動、委員会活動、ボランティア活動など働くことで、達成感ももてる指導をする。</p> <p>□黙って静かに掃除をする「もくもくそうじ」を委員会からの働きかけなどを通して、全校で徹底する。</p> <p>□キャリア教育についての研修を行う。</p> | <p>・6年生が地域の高齢者施設を訪問して、活動することが、勤労観や職業観を育てることにつながっている。</p> <p>・日常的な係活動や委員会活動や清掃活動などを、勤労観の育成につなげる。</p> |
| | 24 | B | <p>○「ガイダンス」一人一人が自己の能力・適性や多様な可能性を理解し、将来の夢や希望の実現に向けて自分のよさを生かし主体的に進路選択ができるよう、個に応じた正確な情報提供や説明及びそれらに基づいた学習等のガイダンスの機能を充実する。(中)</p> | | |
| 【健康教育】 | 25 ◎ | B | <p>○給食の時間に、日常的にバランスよく食べることや残さず食べることの大切さを指導した。</p> <p>○給食時の栄養教諭の訪問で、食べることの大切さや栄養に関わる話から、児童は、「食」についての関心を深めた。</p> <p>○各学年で、栄養教諭・養護教諭・担任が連携をして「食育」を計画的に実践したことで、児童は、食べることの役割や大切さを学ぶことができた。</p> <p>○生活チェックや「食」に関するアンケートから、児童の実態をつかむことができた。</p> <p>○薬物乱用防止教室や思春期教室、食育につ</p> | <p>□朝ご飯を食べることや排泄の習慣などについては、家庭教育学級や保健だよりなどを活用して、家庭への啓発を図る必要がある。</p> <p>□朝のランニングの前には、出席確認や健康観察を確実にを行う。</p> | <p>・「食育」は大切に、栄養教諭と連携して、各学年とも計画的に指導されていることで、より効果がある。</p> <p>・外部の講師による指導は、旧番</p> |

| 町の重点 | 評価の観点 | 評価 | 今年度の成果 | 来年度への課題と改善策 | 学校関係者評価 |
|---|--|----|---|--|---|
| 【健康教育】 運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる | 26 ＜運動推進＞児童生徒が課題や願いをもって積極的に体力づくりに取り組み、日常的な運動実践の場や機会を充実させる。 | B | <input type="checkbox"/> 朝のランニングやなわとびなどで、児童の体力の向上を図った。 <input type="checkbox"/> 朝のランニングの成果を発揮する場として、児童は持久走大会に意欲的に取り組んだ。 <input type="checkbox"/> 児童は文化賞を励みとして、朝のランニングに一生懸命取り組んだ。 <input type="checkbox"/> 休み時間に学級遊びをするなどして、元気に外遊びに出かける児童が多い。 | <input type="checkbox"/> 体育の授業や朝のランニング、外遊び等、運動する機会を増やす。 <input type="checkbox"/> 体育の授業を年間計画に沿って行い、児童に学年相応の動きや技能を身に付けさせる。 <input type="checkbox"/> 児童に遊びを教えるなどして、楽しく遊ぶことができるようにする。 <input type="checkbox"/> 中休みは、外で遊ぶことをキャンペーンを行うなどして徹底する。 | ・外部の講師による指導は、児童は興味をもって、学ぶことができる。 ・児童のアレルギーに対して、保護者と連携して、複数のチェックで、ていねいに対応・指導されている。 ・さらに、休み時間などの児童の遊びに目を向け、指導したり一緒に遊んだりすることで、体力の向上につなげる。 |
| | 27 ＜未然防止＞児童生徒の健康・安全を守りきるために、学校と家庭、地域社会が連携した組織体としての総合的な力を発揮し、健康被害等の未然防止に万全を期す。 | B | <input type="checkbox"/> アレルギーチェックを毎日、複数の職員で確実に行った。 <input type="checkbox"/> 児童のけがには、養護教諭を中心に、迅速・慎重に対処した。 <input type="checkbox"/> 保健の授業や薬物乱用防止教室等を通して、薬物の危険性や煙草や酒の害について指導した。 | <input type="checkbox"/> ボールを受ける、投げるなどの技能が身に付いていないことがけがにつながる。遊びや体育の授業でボールに親しめるようにする。 <input type="checkbox"/> 校舎内での過ごし方を指導したり児童会からの働きかけを行ったりするなどして、児童の安全に対する意識・行動を、さらに高める。 | |
| 【特別支援教育】 一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる | 28 ＜校内支援体制＞特別支援教育コーディネーターを中心として、こども園や関係機関との連携を図りながら、ケース会議等で児童生徒理解を図り、一人一人の教育的ニーズを正しく理解して、全教職員が組織的に合理的配慮の充実に努める。 | B | <input type="checkbox"/> 支援が必要な児童に対して、複数の教職員が連携・協力して支援することで、落ち着いて授業に取り組むことができるようになってきた。 | <input type="checkbox"/> ケース会議が必要な場合やもち方を明確にしている。 <input type="checkbox"/> 支援員の指導記録を有効に活用し、よりよい支援のあり方を全職員で共有する。 | ・特別支援学級では、一人一人に寄り添って、ていねいに指導されている。子どもにつけたい力を明確にして、一人一人の実態に応じた指導が大切である。 ・特別支援学級と通常学級との交流が、子どもの育ちやよりよい人間関係を育むことになる。 ・発達障がいの理解や指導については、今後さらに研修を重ねる必要がある。 |
| | 29 ○ ＜個別の支援＞本人・保護者との合意形成及び関係機関との連携の下、合理的配慮の継続的な提供及び定期的な見直しができるよう一人一人の教育的ニーズに応じて「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を活用し、一貫した支援を行う中で、一人一人が能力や特性を発揮し、主体的に活動できるよう指導内容や指導方法、評価を工夫改善する。 | B | <input type="checkbox"/> 個別の指導計画を作成し、その指導計画のもとに学習を進めたり支援をしたりした。 <input type="checkbox"/> 児童の姿や困っていること、支援のあり方などを保護者に具体的に伝え、理解を図った。 <input type="checkbox"/> 通級指導教室の担任と情報を共有して、指導に生かした。 | <input type="checkbox"/> 個別の支援計画を複数の職員で見直す。 <input type="checkbox"/> 主体的に活動できるように指導方法を工夫改善する。 <input type="checkbox"/> 個別の支援計画に有効な支援について、記録を確実に残し、引き継ぐようにする。 | |

| 町の重点 | 評価の観点 | 評価 | 今年度の成果 | 来年度への課題と改善策 | 学校関係者評価 |
|---|--|----|--|---|---|
| | 30 ＜交流及び共同学習＞特別支援学級等と通常の学級の児童生徒との交流及び共同学習を計画的・継続的にを行い、社会性や豊かな人間性を育てることができるよう指導を充実する。 | B | ○特別支援学級と通常の学級の交流学習を計画的にすすめ、児童はなかよく活動することができた。 ○通常の学級では、特別支援学級在籍児童への関わり方について、継続的に指導した。 ○学級担任と特別支援学級担任と常に情報を交流して、指導に生かした。 | □交流学習での学習内容や支援の仕方などについて、特別支援学級担任との連携をさらに密にする。 | |
| 【人権教育】 不合理な差別をなくし、人権を尊重する温かい人間関係を醸成する | 31 ＜人間関係の醸成＞互いのよさを認め合い、温かく思いやりのある望ましい人間関係を醸成する指導を工夫改善する。 | B | ○「ひびきあい集会」での人権擁護委員の方の話で、児童の人権に対する意識が高まった。 ○人権に関するアニメーションで、自他を大切にすることについて、児童に分かりやすく伝えた。 ○児童会を中心に、人権宣言作りや挨拶・言葉遣いにかかわるキャンペーン活動を行うなど、全校で取り組めた。 ○どの学級でも、「かがやきみつけ」など、互いのよさを認め合う活動を行った。 | □児童の言葉遣いの悪さが、トラブルにつながっている。場に応じた正しい言葉遣いや相手を思いやる言葉遣いを、さらに、家庭とも連携をして、全校的に指導する。 □「さん付け」の取り組みは1学期から取り組むようにする。 □互いのよさを見つけあう「かがやきみつけ」などの内容について、モデルを示したり価値付けたりするなどの指導をする。 | ・「ひびきあいの日」の取組や、児童会の取組が、児童の心に響き、行動につながっている。 ・「いじめ」への早期発見・早期指導が、組織的に協力していねいに行われている。今後も、継続する。 ・「ひびきあい賞」を受賞したことを励みとして、よりよい人間関係の育成のために、さらに年間を通して、人権教育に取り組む。 |
| | 32 ○ ＜いじめ・差別の解消＞いじめや差別を許さない学校・学級づくりに徹し、全校が一丸となった取組を継続的に行う。 | B | ○いじめや差別のない学校・学級づくりに徹し、児童の言動に注意し、教職員間の情報交流を密にして、いじめは絶対に許さないという態度で指導にあたった。 ○毎月の「心のアンケート」を通して、児童理解を図り、指導に生かした。 ○人権週間や、「とげとげ言葉ゼロ」や「さん付け」「あったかフラワーガーデン」などのキャンペーン活動を全校で行い、望ましい言語環境や相手を大切にした言動などを指導し、いじめや差別に対する児童の意識を高めた。 | □人権週間だけの取組でなく、「さんづけ」を徹底するなど年間を通して指導する。 □キャンペーン活動の成果を継続する。 | |
| 【情報教育・図書館教育】 児童生徒の情報モラルを高め、情報化社会に対応できる情報活用能力を育てる。 ・日常的に読書に親しみ、教養・価値観・感性を高めようとする態度を育てる | 33 ＜情報活用能力＞情報活用能力における児童生徒の実態を把握し、段階表に基づいた体系的な指導をする。 | C | ○調べ学習などで、インターネットを活用した。 ○「キーボード島」を活用して、ローマ字入力の練習を進めた。 | □指導計画の見直し、計画をする。 | ・デジタル教科書が活用されている。さらに、効果的な情報活用や授業への取り入れ方を研修し、交流する機会をもつとよい。 ・情報モラルの問題は、避けては通れない。小学校の早い時期からの指導が大切であると共に、保護者の意識を高めることが必要である。PTAや中学校と連携を図った指導ができることよい。 ・本の配置や掲示などが工夫されている。さらに、読書に親しめる取り組みを進める。 |
| | 34 ○ ＜情報モラル＞情報モラル（SNSを介したネットトラブル等）について、意図的・効果的な指導を行う。 | B | ○情報モラル（SNSを介したネットトラブル等）について、それぞれの学年に応じ、計画的・意図的に指導した。 ○情報モラルについて、ニュース等の具体的な事例を活用して指導し、インターネットの危険性について、児童の理解を図った。 | □インターネットの危険性について、教職員や保護者が研修し、指導に生かすようにする。 □中学校や家庭と連携した指導を進める。 | |
| | 35 ○ ＜図書館教育＞学校図書館を利用しやすく整備し、図書館の計画的利用や読書活動の推進に取り組む。 | A | ○バーコードでの貸し出しや返却ができるようになり、利用しやすくなった。 ○朝読書の実施や読書ノートへの記録などを継続して、読書活動を進めた。 ○司書や図書館担当と連携して、国語の学習等で本を活用した。 ○各学年の「必ず読む本10選」を選定し、全員が読み切ることができるようになった。 | □さらに、児童が進んで読書に親しんだり調べ学習に活用したりすることができるように指導する。 | |
| 【ふるさと教育】 「ふるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し、誇りに思う心を育てる | 36 ○ ＜ふるさと学習＞地域を知り、理解するための活動や地域人材を活用した授業を展開するなど、地域に根ざしたふるさと学習を積極的に推進する。 | B | ○生活科や社会科で、町探検を行うなど地域に親しみ、理解する活動を進めた。 ○総合的な学習の時間や国語・社会科などで、計画的に地域人材を活用し、地域にかかわる話を聞いたり見学したりしたことで、児童は、地域に親しみ、愛着をもつことができた。 ○地域の川の水の汚れを調べたり観察したりすることで、児童は、地域の川に関心をもつことができた。 ○デイサービスセンター訪問を繰り返すことで、児童は、利用者の方と関わりを深め、工夫して活動することができた。 | □総合的な学習の時間のカリキュラムを見直し、明確にする。 □総合的な学習の時間だけでなく、教科の学習でも、地域から学ぶことを大切にすること。 □6年生のテーマである福祉「共に生きる」の中で、「わかたけ遊び」の企画や運営を行う。 □人材ファイルを作成し、お世話になった方の資料を整理して引き継ぐ。 | ・総合的な学習の時間で、学年に応じた課題で、ふるさと学習に取り組んでいることが、子どものふるさとの理解や愛する心につながっている。 |
| | 37 ○ ＜国際交流＞国際交流などを通して、グローバル化に対応した豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化を理解する力等を身に付けられるようにする。 | C | ○英語活動の時間のALTからの「トピックス」などで、外国の生活や文化に関心をもつことができた。 | □外国語活動以外の国際交流について、検討する。 | |
| 【防災教育】 自らの命を守るための防災意識の向上を図る | 38 ○ ＜防災教育推進＞学校防災マニュアル等について、学校や地域社会の実態を踏まえた改善を行うとともに、マニュアルに基づく訓練や校内研修会を実施するなど、安全管理体制と一体化した防災教育を推進する。 | B | ○いろいろなケースを想定して「命を守る訓練」を実施した。緊急時に身を守る安全な姿勢を繰り返し指導した。 ○自分の命は自分で守るということについて、繰り返し指導した。実際の場面を想定して、どんな動きをすればよいかを児童に考えさせた。 | □町のハザードマップや町の取り組みについて、研修する。 | ・「命を守る訓練」を工夫してくり返し行うことで、子どもの意識や行動力を高める。 |
| 【家庭学習の充実】 自分の力で学習ができる児童生徒を育てる | 39 ○ ＜家庭学習習慣＞家庭学習の手引きを活用し、望ましい家庭学習の習慣の定着を図る。 | B | ○「ポスター」(家庭学習計画表)を活用や「家庭学習パワーアップ週間」で、児童の家庭学習の時間が増えた。 | □ドリル学習に偏らず、家庭での自主学習の仕方や内容を具体的に例を挙げて、指導する。 □「家庭学習パワーアップ週間」の期間中だけでなく、継続的に一定時間家庭学習に取り組めるよう指導する。 | ・「パワー週間」や「手引き」など学校全体で、家庭学習について、取り組んでいる。さらに、個への働きかけを工夫する。 |